

史跡福井洞窟保存活用計画

—概要版—

佐世保市には 36 か所もの洞窟遺跡があり、「洞窟遺跡日本一」を掲げるほどの数を有しています。

そのなかでも福井洞窟は、昭和 35 年に最初の発掘調査により、旧石器時代から縄文時代への発展過程が層位的に確認される画期的成果が得られ、昭和 53 年に国指定の史跡となりました。

佐世保市では、このような貴重な史跡福井洞窟を大切な市民・国民の財産として
今後も保存・活用していくために、令和 6 年に保存活用計画を策定しました。



佐世保市教育委員会

福井洞窟が教えてくれること

福井洞窟の価値は、昔の人々が残した土器や石器などの遺物や火をたいた炉などの遺構、それらが埋蔵されている地層に加え、洞窟の地形やそこに生育する特有の動物や植物などの自然、地域の人びととの関わりといった様々な要素によって支えられています。

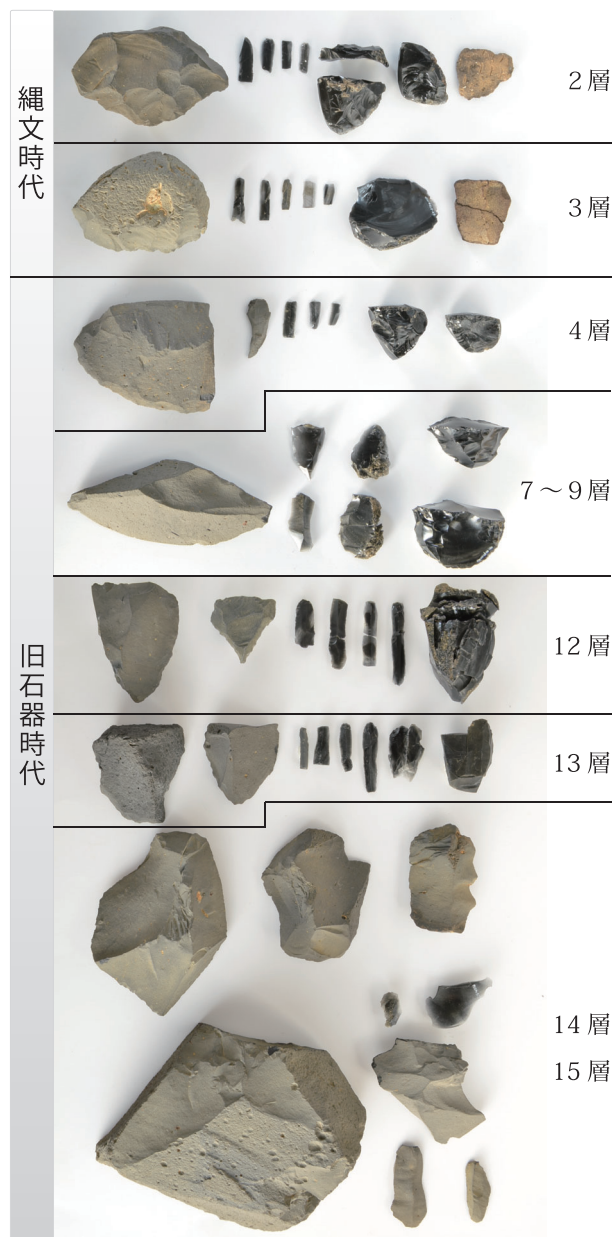
かつての営みと環境を伝える 6mの地層

福井洞窟は6mにおよぶ 16 層もの地層の中に、人びとの営みとそれに伴う道具の変化を見ることができます。特に、旧石器時代の遊動生活から縄文時代の定住生活へと移り変わる過程が分かる人類史上重要な遺跡です。

また、寒い氷河期から温暖になるなかでの動植物などの自然環境の変化を知ることができます。



福井洞窟の地層



旧石器時代から縄文時代の出土遺物

洞窟利用のあり方を示す遺構や遺物

福井洞窟では、旧石器時代の終わり頃（19,000 年前～18,000 年前）の炉や石敷^{いしじき}といった生活の跡や、細石刃^{さいせきじん}などの道具作りの跡が残っています。縄文時代はじめ頃（16,000 年前～14,000 年前）には数万点におよぶ細石刃が見つかり、当時の中心的な遺跡であったことが考えられます。

さらに時代が進み、縄文時代早期（10,000 年前）には洞窟の前や洞窟上の台地を利用し石器を作るなど、生活する場所を広げていたこともわかっています。



旧石器時代（約18,000年前）の炉跡



福井洞窟周辺の景観

往時の暮らしを想起させる 自然環境や景観

福井川の浸食によって作られた洞窟はやがて溪谷となります。人々はその谷筋を行きかい、川で安山岩を集め、石器をつくり、狩りに出かけていたと考えられます。

この地域では、福井川を中心とした谷地形や安山岩原石、岩肌に自生するシダ植物群落など、貴重な景観が残されています。洞窟に立つと、雨や風をよけることができ、滝や川のせせらぎなども体感できます。

保存を支えた神社の信仰や地域の取組み

福井洞窟の発見は、昭和 10 年（1935）の福井稲荷神社本殿の改築がきっかけでした。神社は地域の氏子に管理され、現在も秋の「おくんち」には平戸神楽の神事が行われています。

このように、地域の人びとの継続的な史跡を守る取組みが出発点となっています。福井洞窟が良好に保存され続けた背景には、福井稲荷神社の信仰や地域の人びとの想いが存在しているのです。



福井稲荷神社境内地



洞窟周辺の集落



福井稲荷神社での春祭り 平戸神楽



発掘調査の様子 平成24年（2013）

調査研究の積み重ねで得られた技術・知見

昭和 30 年代に行われた福井洞窟の発掘調査では、旧石器時代から縄文時代の遺跡であることが明らかとなりました。さらに、半世紀後の再発掘調査では、新たな科学技術によって、様々な研究を進めることができました。調査研究の進展によって、福井洞窟の持つ価値はさらに深まりました。



発見当初の福井洞窟 昭和35年(1960)©



昭和30年代の調査関連資料

© 大塚和義氏提供

100 年先の未来に向けて動き出す

「四次元空間デザインプロジェクト」

福井洞窟の所在する佐世保市は、「洞窟遺跡日本一のまち 佐世保」を掲げています。北松浦半島の本地域は、基盤となる第三紀層の砂岩とその上を覆う玄武岩の溶岩台地が河川によって削られ、岩体がせり出し、洞窟や岩陰の地形が作り出されました。先史時代の人々は、この格好の居住地を見逃さずに生活の場としたのでしょう。平地の少ない本地域においては、自然地形を巧みに利用した人々の足跡について、遺跡を通して理解することができます。こうした先人の叡智^{えいち}が集約されている洞窟遺跡が、福井洞窟です。

市民が自分の言葉で「私たちの福井洞窟」を語り、学校を卒業する児童が「私の出身は福井洞窟のあるまち」と、郷土に愛着をもつ、そうしたまちづくりが一つの展望と言えます。

一方で、福井洞窟の半世紀を超える研究の足跡は、土器出現の研究として世界的にも知られています。今後も日本の洞窟遺跡研究を牽引し、将来的には、東アジアを代表する「洞窟遺跡」の拠点都市として世界に発信することが望まれます。

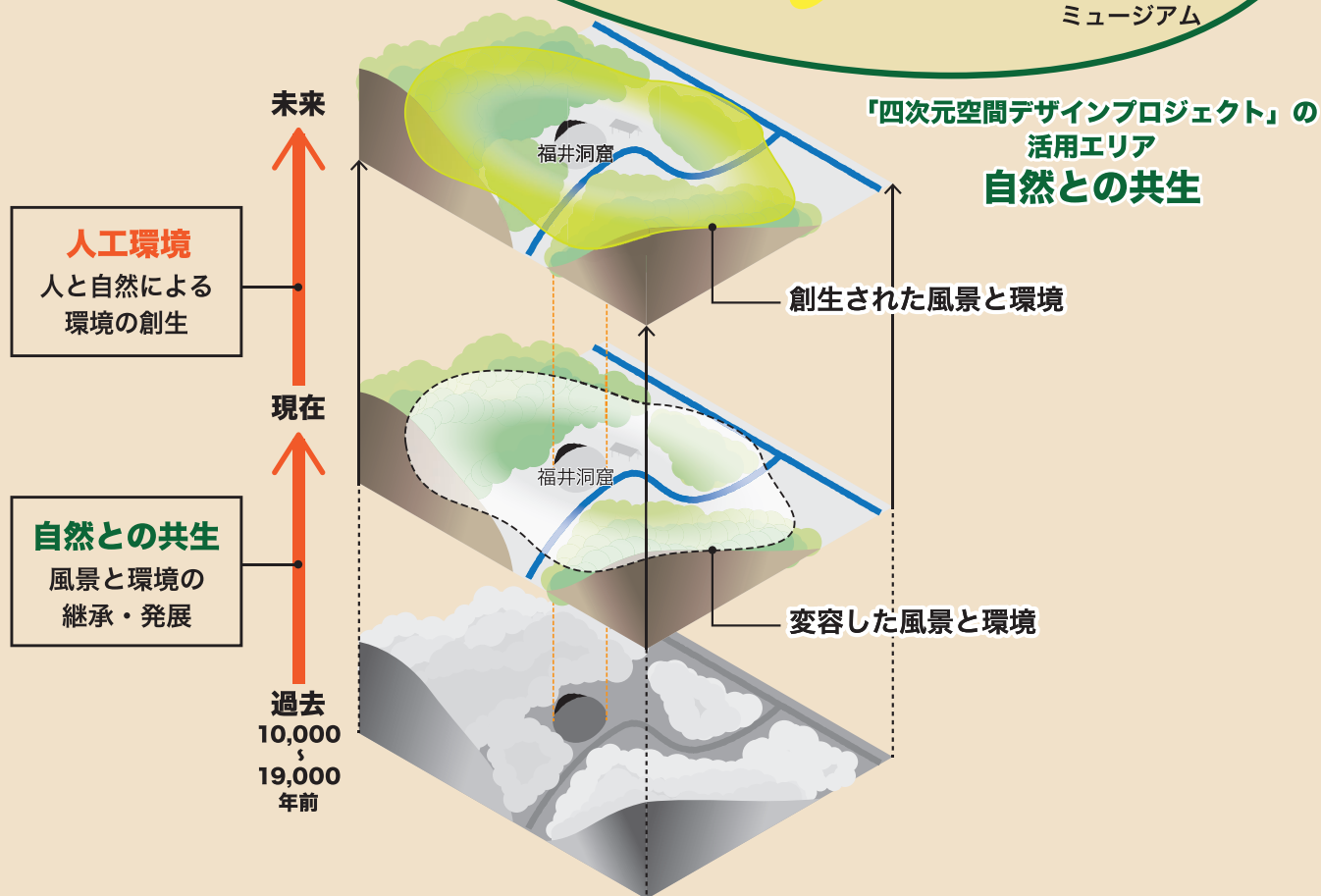
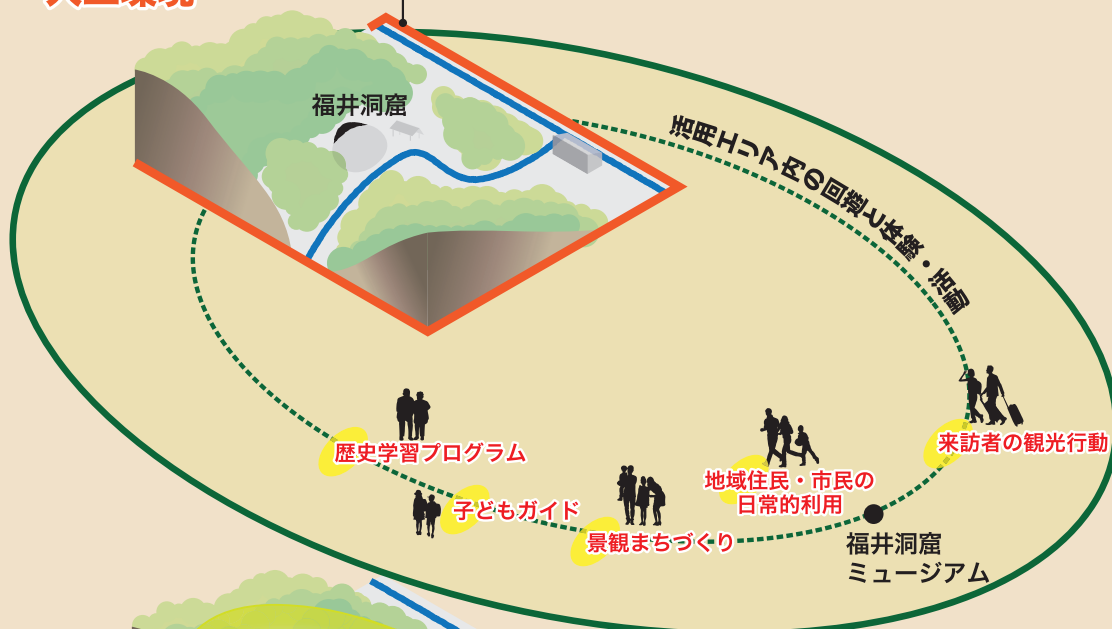
そのための基本理念が「四次元空間デザインプロジェクト」です。当時の自然と共生する社会をモデルに、景観や自然環境を人工的に創生していきます。そのための仕組みが、「景観まちづくり」や「福井洞窟学」であり、「フィールドミュージアムの実践」です。これには様々な分野の力を借りて、官民一体となって持続的に行う必要があります。

こうした計画は、100 年、200 年先を見据えたものです。「四次元空間デザインプロジェクト」を実践し、動物、昆虫、植物が生きる拠点を獲得できるようにしていく。それは、他に類のない「洞窟遺跡日本一のまち 佐世保」の象徴的な空間デザインを作り上げることになるのです。

目指す将来像

- 1 市民が文化財の持つ四次元空間としての価値に気づき、創生することで、次世代に伝える史跡
- 2 先史時代の移り変わりや洞窟遺跡の特性を探究し、その研究を世界に発信する拠点
- 3 研究成果に基づき、当時の人々の息吹とその暮らし、環境を体感できる史跡
- 4 地域内外の日常的な憩いや様々な交流を創出する拠点

「四次元空間デザインプロジェクト」の
メインフィールド
人工環境



人工環境、自然との共生により循環する史跡のイメージ

福井洞窟の価値を守る

史跡指定地や広域での保存管理

福井洞窟を確実に保存するため、指定地の遺構や遺物の適切な保存管理にとどまらず、「四次元空間デザインプロジェクト」の実現に向けた広範囲での環境の保全活用に取り組みます。

本史跡では保存管理のための地区区分を設定し、エリアごとに方針や具体的な手法を定めています。

【史跡指定地】

すでに国の史跡として指定を受けた範囲。
文化財保護法に則り確実な保存を行います。

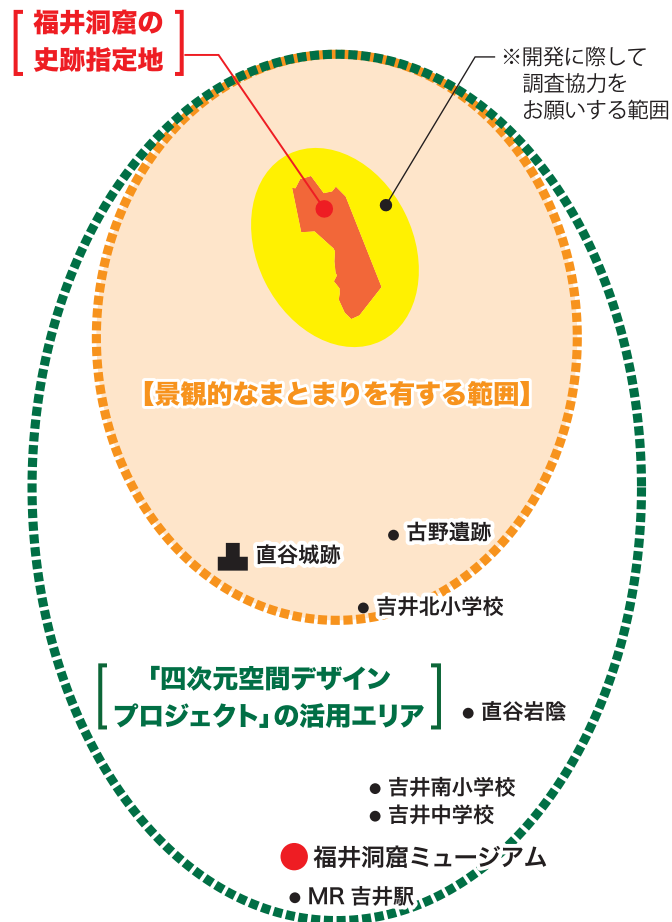
【景観的なまとまりを有する範囲】

福井谷を中心とした範囲。
エリア全体の景観の質の向上を目指します。

※指定地から概ね100m程度の範囲は、開発に際して調査協力をお願いしています。

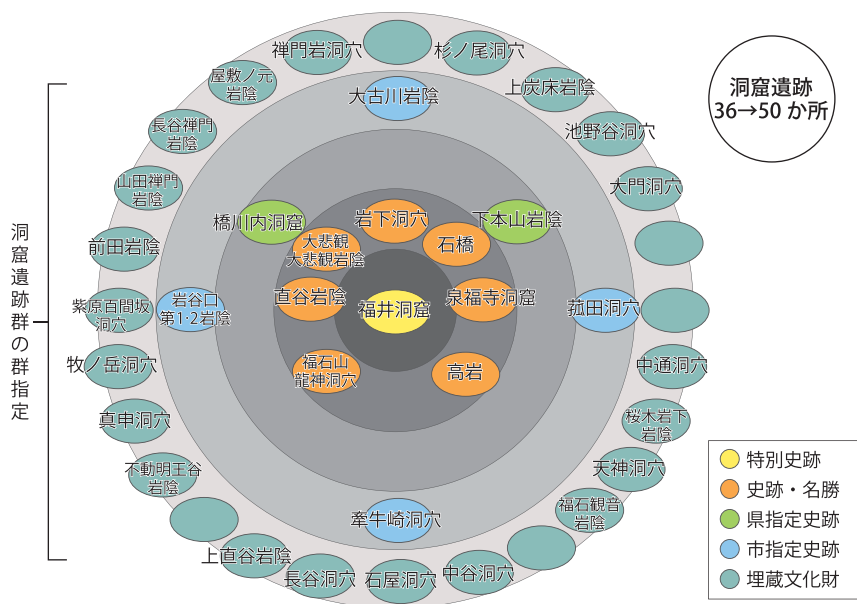
【「四次元空間デザインプロジェクト」の活用エリア】

地域コミュニティや公的インフラを含む範囲。
地域の活動と連携したエリア全体の活性化を目指し、様々な活用プログラムに取り組みます。



佐世保市洞窟遺跡群の保護

佐世保市には、36 か所の洞窟遺跡が川に沿って、点々としています。福井洞窟をはじめとして、各洞窟遺跡は時代ごとに様々な関係にあります。今後も継続的に発掘調査を行います。また、洞窟遺跡群の史跡指定または群指定、さらに出土品等の国重要文化財指定を目指していきます。



将来の佐世保市の洞窟遺跡群の保護イメージ

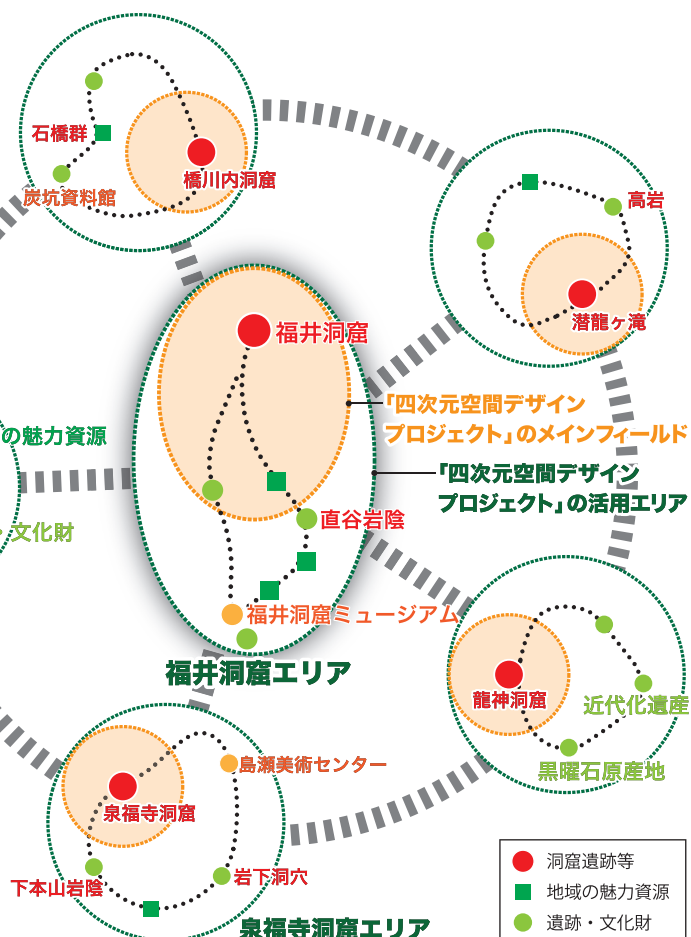
魅力を活かす

「フィールドミュージアム」の推進

福井洞窟では、福井川と佐々川の流域を巡ることで、さらに洞窟遺跡の理解を深めることができます。福井洞窟や福井洞窟ミュージアムを核として、各遺跡を周遊することで、教育だけでなく観光や福祉などの他分野と連携した魅力創出を行います。

「福井洞窟学」の実践

福井洞窟及びその周辺地域について理解を深めるため、これまでの調査や研究した情報を一体的に学び、その学びが蓄積できるよう「福井洞窟学」を実践します。



環境を整える

史跡を保存するための整備

福井洞窟の地層や岩が崩れたりしないようにするため、適切な樹木の伐採や地層の保護等を行います。



史跡を活用するための整備

史跡地の見学に必要な解説や案内標示のほか、福井洞窟ミュージアムとの連携に必要なインフラ整備など、様々な課題について計画的に進めていきます。



“私たちの福井洞窟” と思えるまちづくり

福井洞窟のファンを増やす取組み

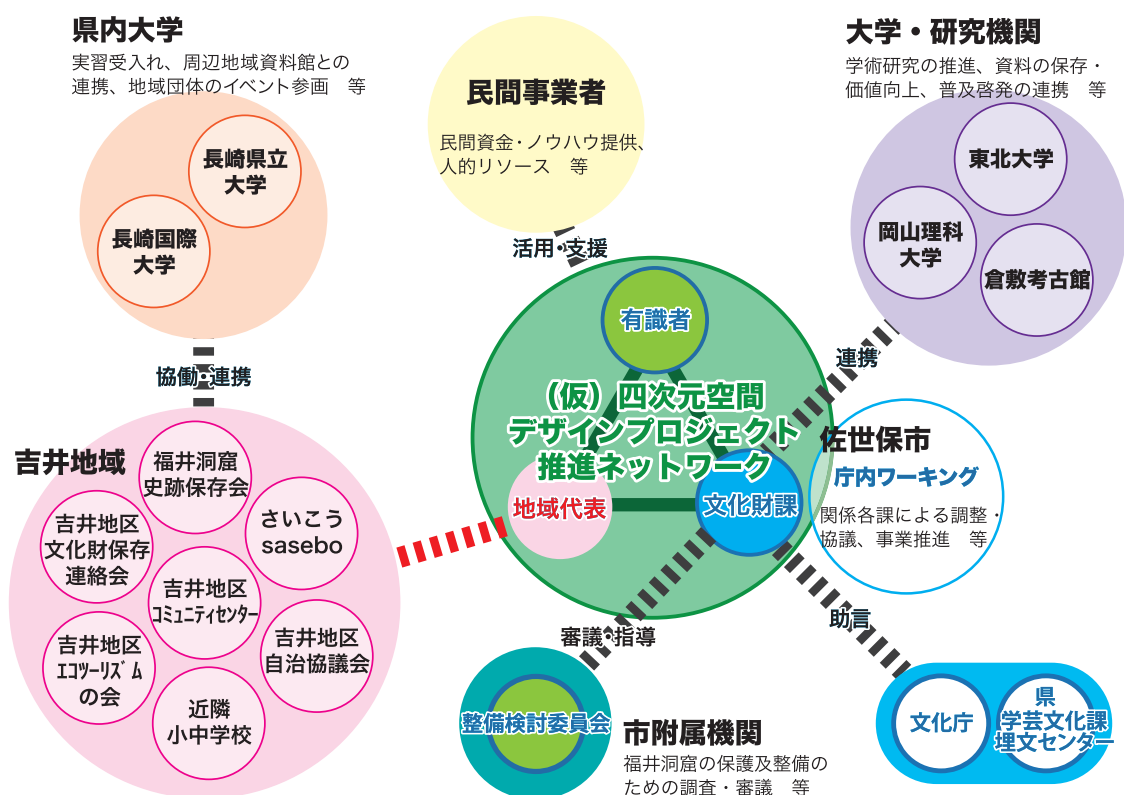
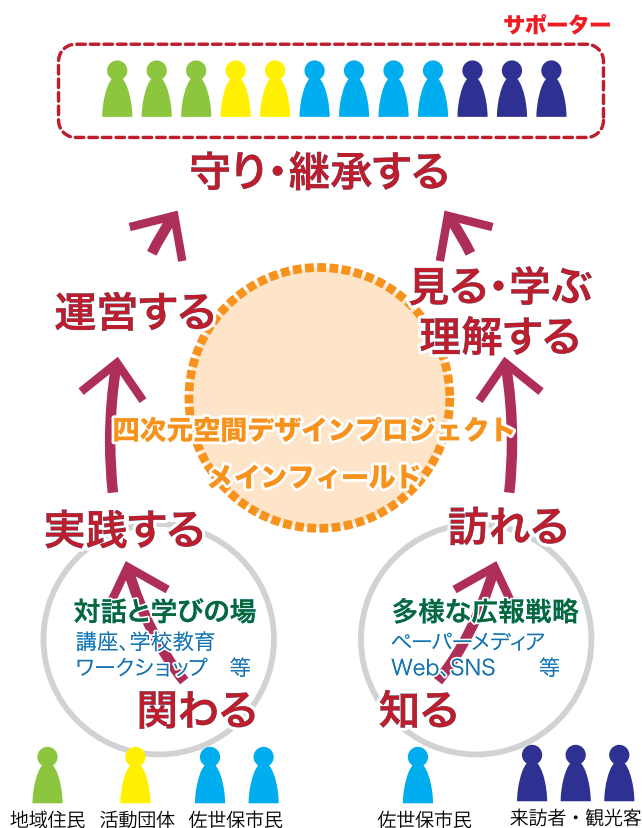
地域の高齢化と人口減少が進むなか、史跡を守り活かすためには、様々な人が福井洞窟について知って、その価値を認識することが大切です。

福井洞窟に関わる人を増やすために、観光施設や地域拠点と連携した情報発信に加え、学習会や交流事業に取り組みます。

史跡を守り、活かすための運営体制の構築

こうした計画・様々な取組みを実施するため、「四次元空間デザインプロジェクト」を推進するネットワークを構築します。

福井洞窟ミュージアムを拠点として、地域、行政、団体等が協働でマネジメントを実施します。



史跡福井洞窟保存活用計画 ー概要版ー 令和6年(2024)3月

発行・問合せ先 佐世保市教育委員会

〒857-8585 長崎県佐世保市八幡町 1-10 TEL:0956-24-1111 FAX:0956-25-9682